

特別活動 学級活動におけるよりよい意思決定と実践へつなげるための授業づくり

学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」は、個々の児童生徒の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践につなげることをねらいとしています。小・中・高等学校のつながりを意識しながら指導し、話し合い等を通して一人一人の考えを深め、自分に合った解決方法を意思決定して実践し、その取組の振り返りをしていくことができるような指導過程にすることが大切です。

【指導例】学級活動(3)ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用(小学校第4学年)
題材:「習かんにしよう, 家庭学習!」

〈ねらい〉学ぶことが将来の自己実現にどうつながっていくか考え, これからの家庭学習の取り組み方について自分に合った目標を立て, 実践できるようにする。



事前の活動 ①題材の設定→②問題の確認→③共通の課題の設定→④指導計画の作成→⑤児童生徒の問題意識を高める

Point ◎年間指導計画により, 個々の児童生徒が共通に解決すべき問題として題材を設定し, 授業で取り上げる内容を事前に児童生徒に伝えて問題意識の共有化を図ります。

本時の活動

つかむ

さぐる

見付ける

決める

① 課題の把握

・事前のアンケート結果から, 自分たちの家庭学習の時間や内容等を振り返り, 現状を確認し合う。

Point ◎現在の学びを将来のなりたい職業と関連付けながら, 自分自身の課題として捉えられるようにします。

② 原因の追求

・家庭学習に取り組むことができなかつたり, 内容が不十分だつたりしている原因を考える。

◎原因を整理して, 課題に向けての方向性をはっきりさせ, 改善の必要性を実感できるようにします。

③ 解決方法等の話し合い

・自分の考えを基に, 課題解決に向けて取り組めそうな方法をグループで話し合い, 全体で共有する。

◎意図的なグループ編成にしたり, 思考ツールを活用したりして, 多様な考えを引き出します。

④ 個人目標の意思決定

・話し合いで出された意見等を生かして, 自分に合った具体的な実践方法や目標を決める。

◎強い意思をもって, 何をどのように取り組むのかを具体的に考え, 自分で自己評価できる内容にします。

事後の活動 ①決めたことの実践→②振り返り→③次の課題解決へ

Point ◎本時で意思決定したことを基に, 目標の達成に向けて個人として取り組ませます。目標カードを掲示して常に意識させたり, 取組の過程を見取って励ましたり, 学級通信等で家庭との連携を図ったりすることでより効果を高めるようにします。

児童生徒が自己の成長や変容を実感し, 主体的な学びの実現や今後の生活の改善に生かしたり, 将来の生き方を考えたりすることができるように, “わか杉っ子の「キャリアノート」”(秋田わか杉「キャリアノート」)等を活用し, 活動の過程を記述して振り返ることができるようにしましょう。

